

障がい者等用駐車場

いろんなところで見ることができる「障がい者等駐車場」。これは「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」通称「バリアフリー新法」で3つのことが決まっています。

- 1 出入口からの距離ができるだけ短い位置に設置すること。
 - 2 幅は3.5メートル以上とすること。
 - 3 身体障害者用であることを見やすい方法で表示すること。
- (要約)

となっています。身体に障がいのある人は、車の乗り降りのためにドアを全開にしなければならないことがあります。横幅を3.5メートル以上となっている駐車場でないとなれば乗り降りができないのです（通常の駐車場は2.5メートル程度）。その駐車場を本当に必要としている人がいます。みんなが安心して、みんなが快適に利用できるような駐車場の使い方を心掛けてみましょう。



熊本県では、障がいがある人や要介護状態の人、妊産婦の人など移動に配慮が必要と認められる人に県内共通の「利用証（ハートフルパス）」を交付しています。



知ること、私たちができること

身の回りにあるものをよく見て、知れば、きっとできることは増えるはず。どこにでもある2つの「やさしさ」を詳しく見てみましょう。

オストメイト用トイレ

病気や障がい、事故などが原因で、ストーマ（人工肛門・人工ぼうこう）と呼ばれる便や尿の出口を手術によりお腹に取り付けている人がいます。オストメイトの人は、排せつを自分でコントロールできないため、腹部に「パウチ」と呼ばれる便や尿を溜めておく袋を装着し、トイレに流したり、洗浄したりする必要があります。オストメイト対応のトイレには、排せつ物の処理を簡単にするために汚物流しや、汚れた補装具を洗浄するための温水設備、鏡などが備えつけてあります。

オストメイトトイレなど身体者障がい者用のトイレは、車椅子を使うためやオストメイトの人が洗浄するために広いスペースがあります。もちろん誰でも使うことができますが、「使いたい人がいるかもしれない」と考えることも必要です。必要な人が気持ちよくトイレを使うことができるために、知ることがとても重要です。



3ページに載っているオストメイトマーク。視覚障がいの人のために音声案内が設置されていることも。トイレの形もさまざまです。見てみるとイメージできるかもしれませんね。

「ありがとう」

思いを伝える方法は無量大

「い」の特集を通して、障がいがある人や家族の人に話を聞いて、それぞれいろんな悩みや困りごとがあることが分かりました。何ごとも聞いてみないと分かりませんし、障がいの種別だけで区別して良いものではありません。同じ障がいがある人でも困っていることや悩んでいること、夢や願いは違っていると思います。もちろん、それは障がいがない人でも同じです。だからこそ、「コミュニケーション」が大事なんでしょう。塚本さんや家入さんは「まさか自分が障がい者になるとは思わなかった」と話しました。生まれつきの障がいは違いますが、障がいは誰でもなる可能性があります。その「ひとつ」ではなごのです。だからこそ障がいのことを知る必要があるのだと感じます。皆さんに話を聞いて、今まで想像できなかった悩みや困りごとを知ることができました。そのつらさや悲しみを理解できれば、自然とやさしさが生まれます。やさしさが生まれたらコミュニケーション方法も変わります。

例えば、海外旅行に行つたときに日本語を話してくれる人がいると安心するでしょう。自分が知っている言葉ではない場所で、たどたどしくとも日本語で話し掛けてくれる人のやさしさは伝わります。平山さんは相手が手話を使おうとしてくれると「自分を理解しようとしている」のだと感じると話します。

「ありがとう」という言葉。英語では「Thank you」台湾では「多謝」。伝え方はさまざまですが相手に合わせることもできます。平山さんは手話を使うことがうれしいのではなく、相手のことを考え伝わりの姿勢がうれしいのです。同じ杖でも白杖を知っていれば視覚障がいがあることがわかります。ヘルプマークがあれば何か困っている人だと分かります。分かれば声を掛けることができるでしょう。互いを思いやることができる。いろんな「ありがとう」があふれる町を目指しましょう。

やさしさの特集
「ありがとう」の伝え方 終